

平成22年2月期 第2四半期決算参考資料

米久株式会社
(東証一部：2290)

1. 当第2四半期の業績に影響を与えた主な項目

- 1) 国内食肉相場は全ての畜種において前下半期からの安値傾向が続き、売上高と利益が減少
- 2) 昨年後半に価格が急落したブラジル産冷凍鶏肉の在庫調整を実施し、利益が減少
- 3) 春先にメキシコで発生した新型インフルエンザの影響により、輸入豚肉の売上高が減少
- 4) 上昇が続いていたハム・ソーセージ等の原料用輸入豚肉価格が5年ぶりに低下し、加工品の原価低減に寄与
- 5) 昨年夏の穀物・原油価格の世界的な高騰が本年は解消、畜産飼料及び加工品副原料・資材や燃料コストが低下
- 6) 為替(対USD)は円高基調で推移、輸入仕入コストが低下
- 7) 本年6月に四日市支店を開設、三重県を中心とするエリアへの営業力を強化
- 8) 子会社のチムニー(株)が店舗数拡大を継続、同社の予想を上回る利益を確保
- 9) 当第2四半期末の連結子会社数は1社増加(アンゼンフーズ(株))、1社減少(如皋米久食品有限公司)の合計15社

2. 当第2四半期(平成21年3月1日～平成21年8月31日)の連結業績

	当期実績	前期実績	伸び率(%)	7月公表予想	金額単位 百万円 2009年2月期通期
売上高	82,234	84,831	△3.1	84,800	172,613
営業利益	1,689	2,641	△36.0	1,740	4,646
経常利益	1,691	2,713	△37.7	1,745	4,635
四半期純利益	467	550	△15.1	500	1,001
EPS(円)	16.28	19.14	-	-	34.85
ROE(%)	1.1	1.4	-	-	2.8
ROA(%)	2.4	3.6	-	-	6.4

注)ROAは事業利益(営業利益+営業外収益)にて算出してあります。

3. 第2四半期(3月1日～8月31日)連結業績の推移

	2005年8月	2006年8月	2007年8月	2008年8月	2009年8月
売上高	66,252	70,820	79,173	84,831	82,234
営業利益	1,973	1,809	1,669	2,641	1,689
経常利益	2,026	1,821	1,662	2,713	1,691
四半期純利益	661	421	907	550	467
純資産	32,897	36,444	38,663	39,871	40,956
総資産	62,839	67,320	78,488	80,914	80,541
一株当たり純資産:円	1,144.58	1,182.54	1,195.86	1,219.88	1,227.75
一株当たり四半期純利益:円	23.00	14.67	31.58	19.14	16.28

4. セグメント別業績の推移

金額単位 百万円

		2005年8月	2006年8月	2007年8月	2008年8月	2009年8月
売上高	加工品・食肉事業	51,715	52,566	56,226	64,130	61,085
	外食事業	10,268	13,544	17,102	19,549	20,028
	その他事業	4,269	4,709	5,844	1,151	1,119
	消去又は全社	-	-	-	-	-
	連結合計	66,252	70,820	79,173	84,831	82,234
営業利益又は損失	加工品・食肉事業	1,204	739	114	1,044	39
	外食事業	770	1,023	1,514	1,604	1,626
	その他事業	△12	33	25	△16	16
	消去又は全社	10	12	14	9	6
	連結合計	1,973	1,809	1,669	2,641	1,689

5. 連結子会社一覧

金額単位 百万円

会社名	持分割合 (%)	売上高	総資産	事業内容
米久かがやき(株)	100.0	6,653	1,759	ハム・ソーセージ・デリカ製品の製造
米久デリカ(株)	100.0	3,294	2,352	ハム・ソーセージの製造
(株)日宏食品	100.0	906	317	ソーセージの製造
ヤマキ食品(株)	100.0	888	1,039	冷凍デリカ製品の製造・販売
(株)セブンフードサービス	100.0	758	553	弁当・惣菜の製造・販売
アンゼンフーズ(株)	100.0	313	4,320	冷凍デリカ製品の製造・販売
国内加工品生産会社計		12,813	10,343	
YONEKYU U.S.A.,Inc.	100.0	1,747	1,238	ソーセージの製造
海外加工品生産会社計		1,747	1,238	
米久東伯(株)	100.0	2,876	2,842	鶏肉の生産・加工・販売
おいしい鶏(株)	100.0	1,414	547	鶏肉の加工・販売
(株)マルフジ	100.0	732	252	食肉の卸売業
アイ・ポーク(株)	60.0	689	234	豚肉の加工・販売
食肉供給会社計		5,713	3,875	
チムニー(株)	47.0	19,141	20,378	居酒屋チェーンの経営とFC展開
御殿場高原 ビール(株)	54.3	887	806	地ビールレストランの経営
外食・レストラン経営会社計		20,029	21,184	
(株)平田屋	100.0	772	784	菓子の製造・販売
(株)吉野屋	100.0	266	274	書籍等の販売
その他の会社計		1,038	1,058	
< 連結子会社合計 >		41,342	37,700	

その他、持分法適用会社2社

・加工品・食肉事業
・外食事業

ときめきファーム(株)
ふじやまビール(株)

6. 当期の業績

(1) 売上高

米久(株)では、前期に引き続き、第4次中期経営計画の基本戦略に沿って販売数量拡大を推進しました。まず、加工品ではソーセージが国産・米国産のいずれも大変好調に推移するとともに、YONEKYU U.S.A.,Inc.は増加する需要に応えるために年初より増産体制を組んでこれに対応しました。また、ハム等の売上高は微増、デリカテッセンは前年同期並みとなり、加工品全体の売上高は増加しました。一方、食肉では、豚肉・牛肉・鶏肉の全ての畜種において数量を伸ばしたものの、国内相場の低迷が響き、売上高に影響しました。畜種別では、牛肉が輸入品の売上高を伸ばしたものの、豚肉はこれまで順調に拡大してきた北米産ブランドミートが減少、また、鶏肉の相場も前年同期の極めて高い状況から大きく下回り、売上高が減少しました。これらの結果、食肉他全体の売上高は大きく減少し、加工品を含めた米久(株)の売上高は3.5%の減収となりました。連結子会社では、鶏肉の相場安がブロイラー事業を展開している子会社の米久東伯(株)、おいしい鶏(株)の業績にも影響しました。また、外食事業会社では、チムニー(株)が、直営店中心に27店舗の出店を行い、売上高を2.8%伸ばしました。一方、御殿場高原ビール(株)は僅かながら売上高が減少しました。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高は25億97百万円減少の822億34百万円(前年同期比3.1%減)となりました。

(2) 売上総利益

米久(株)では、食肉の国内相場低迷と消費者の低価格品志向による加工品の単価下落により、売上総利益率は0.5ポイントの低下となりました。一方、生産子会社では、2004年の後半以降上昇が続いていた主原料用の輸入豚肉価格が5年ぶりに低下したこと、加工品の販売数量が拡大したことにより、ハム・ソーセージ等を製造している米久かがやき(株)と米久デリカ(株)の売上総利益が大幅に増加しました。一方、ブロイラー関連事業の米久東伯(株)とおいしい鶏(株)は、飼料価格の低下があったものの、国産鶏肉相場下落が響いて、売上総利益が大幅に減少しました。チムニー(株)は直営店舗の数が増えたことにより、売上高と同様に売上総利益も増加しました。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上総利益は4億55百万円減少の207億14百万円(前年同期比2.2%減)、売上総利益率は前年同期比0.2ポイント上昇の25.2%となりました。

(3) 販管費、営業利益

米久(株)では、販売数量の増加に伴う物流費増や、これまで開発を進めてきた新基幹システムが稼働を開始したことによる減価償却費の増加などにより販管費は1.9%増加し、売上高に対する販管費率は前年同期に比べ0.5ポイント上昇の10.1%となりました。また、チムニー(株)は引き続き直営店舗数の拡大により人件費や家賃・運賃・水道光熱費などが増加、売上高販管費率は0.3ポイント上昇の56.4%となりました。

これらの結果、当第2四半期累計期間の販管費は、4億96百万円の増加の190億25百万円(前年同期比2.7%増)となり、売上高販管費率は1.3ポイント上昇の23.1%となりました。また、営業利益は9億51百万円減少の16億89百万円(前年同期比36%減)となりました。

(4) 営業外収支、経常利益

営業外収益が12百万円増加、営業外費用は82百万円の増加となりました。なお、このなかの持分法による投資損益は78百万円の減少となりました。

これらの結果、経常利益は10億22百万円減少の16億91百万円(前年同期比37.7%減)となりました。

(5) 特別損益、税金等調整前四半期純利益、四半期純利益

特別利益については、米久(株)の退職給付制度移行に伴う利益や投資有価証券売却益、また、チムニー(株)の受取補償金などがあり、全体で2億11百万円の増加となりました。

特別損失については、当第2四半期累計期間に固定資産除却損や減損損失などを計上したものの、前年同期に事業整理損失引当金繰入額を6億74百万円計上したことなどにより、7億72百万円の減少となりました。

これらの結果、税金等調整前四半期純利益は38百万円減少の17億23百万円(前年同期比2.2%減)となりました。また、法人税等が52百万円減少、一方、少数株主利益が96百万円増加した結果、四半期純利益は82百万円減少の4億67百万円(前年同期比15.0%減)となりました。

7. 下半期の業績に影響を与える主な項目

- (1) 加工品の主・副原料価格が引き続き低下、利益率の向上を見込む
- (2) 加工品販売価格の一部改定による利益率の向上を見込む
- (3) 食肉の国内相場は、足元の弱含んだ状況から緩やかに回復と見込む

8. 通期業績予想

金額単位 百万円

	今回予想	前期実績	伸び率(%)
	金額	金額	
売上高	175,500	172,613	1.7
営業利益	5,250	4,646	13.0
経常利益	5,200	4,635	12.2
当期純利益	1,930	1,001	92.8
E P S (円)	67.22	34.85	-

9. 設備投資及び減価償却費

- (1) 設備投資額 金額単位 百万円 注)チムニー株の設備投資金額には保証金を含んでおりません。

		金額	主な内容(通期予想では下半期における内容を記載)
連結	上半期実績	1,776	米久 工場設備更新 1億31百万円 チムニー 新店投資11億42百万円 米久東伯 鶏舎設備 2億31百万円
	通期予想	4,520	米久 工場設備更新 2億53百万円 チムニー 新店投資15億81百万円 米久東伯 鶏舎設備 4億6百万円

- (2) 減価償却費 金額単位 百万円

		金額
連結	上半期実績	1,842
	通期予想	3,700